

カルメル霊性センターニュース（月刊） 2003（平成15年）1月号

2003. 1  
霊性センターニュース  
173号



〒611 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
宇治聖テレジア修道院(黙想)  
TEL 0774-32-7016  
FAX 0774-32-7457

## 2003年 カルメル会 東京・上野毛聖テレジア修道院(黙想)

### 黙想会年間スケジュール

#### 1. 信徒と奉獻生活者のための個人指導黙想会

スタッフ：星野正道師 (カルメル会)、西脇 良師 (神言会)  
Sr.中川享子 (ケベックカリタス会)

- (1) 6月 7日 (土) 16時～16日 (月) 朝食
  - (2) 10月20日 (月) 20時～29日 (水) 朝食
- 全期間参加の方優先ですが、二泊からの部分参加も可能

#### 2. 奉獻生活者のための黙想会

- (1) 7月30日 (水) 16時～ 8月 8日 (金) 朝食 渡辺幹夫師
- (2) 8月12日 (火) 16時～ 8月21日 (木) 朝食 星野正道師
- (3) 12月26日 (金) 16時～翌年1月4日 (日) 朝食 チプリアーノ師

#### 3. 聖書深読黙想会

次の各土曜日の夕食から日曜日の16時30分まで

- (1) 4月12日 (土) ～13日 (日) 奥村一郎師
- (2) 6月28日 (土) ～29日 (日) 九里 彰師
- (3) 9月27日 (土) ～28日 (日) 星野正道師
- (4) 11月29日 (土) ～30日 (日) 九里 彰師

2004年

- (5) 1月10日 (土) ～11日 (日) 星野正道師
- (6) 3月 6日 (土) ～ 7日 (日) 奥村一郎師

#### 4. ウェンズデイ・リトリート

スタッフ：星野正道師 (講話、ミサ、etc.)

テーマ：「み手の中ですべては変わる」

A

B

- |                |                |         |
|----------------|----------------|---------|
| (1) 4月23日 (水)  | (1) 5月21日 (水)  | 10時～16時 |
| (2) 6月 4日 (水)  | (2) 7月 2日 (水)  | 〃       |
| (3) 9月 3日 (水)  | (3) 10月 1日 (水) | 〃       |
| (4) 11月 5日 (水) | (4) 12月 3日 (水) | 〃       |
| (5) 2月18日 (水)  | (5) 3月 3日 (水)  | 〃       |

## 5. 奉獻生活者と信徒のための黙想会

2004年1月19日(月)16時～1月28日(水)朝食 星野正道師

## 6. 特別黙想会

最初の日の夕食をすませてからの集合。どなたでも参加できます。

- (1) 7月 7日(月)20時～9日(水)15時 新井延和師
- (2) 11月18日(火)20時～20日(木)15時 ”
- (3) 12月 5日(金)20時～7日(日)15時 Sr.伊従信子

## 7. 大祭日のミサにあずかるために

チェックイン午後3時から。(講話なし)チェックアウト午前10時まで

- (1) クリスマス 12月24日(水)～25(木)朝食
- (2) 復活祭 2004年4月11日(土)～12(日)朝食

## 8. ユース・リトリート

若者のための黙想会

11月22日(土)夕食～11月23日(日)16時 大瀬高司師

## 9. 男子青年黙想会

スタッフ: カルメル会士

- (1) 5月16日(金)20時～18日(日)16時
- (2) 11月 7日(金)20時～9日(日)16時

## 10. 男子召命黙想会

スタッフ: カルメル会士

10月3日(金)20時～5日(日)16時 (修道生活体験あり)

その他、皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

(お問合せ、お申込み) カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355(黙想) FAX. 03-3704-1764

上記が通じない場合は、修道院 TEL. 03-3704-2171へお願い致します。

ただし、黙想関係の受付窓口を一つにしておりますので、電話でのお問い合わせは、なるべく午前9時～午後5時までの間にお願い致します。

尚、受付が休みになっている際は、すぐにお返事ができない場合もあります。その際は、恐れ入りますが、後日改めてお問い合わせ下さいませようお願い致します。

カメル会 宇治聖テレジア修道院 黙想会案内

【聖書深読】・・・毎回土曜日 午後5時～日曜日午後4時まで

4月26日～27日・・・奥村一郎師  
5月17日～18日・・・新井延和師  
7月19日～20日・・・星野正道師  
9月20日～21日・・・九里彰師  
10月18日～19日・・・中川博道師

11月22日～23日・・・新井延和師  
12月13日～14日・・・大瀬高司師  
04' / 1月24日～25日・・・奥村一郎師  
2月7日～8日・・・未定  
3月20日～21日・・・奥村一郎師

【青年のための黙想】

5月23日(金) 午後8時から(夕食を済ませてきて下さい) 25日(日) 午後4時まで  
・・・九里彰師・カメル会士  
11月7日(金) 午後8時から(夕食を済ませてきて下さい) 9日(日) 午後4時まで。  
・・・大瀬高司師・カメル会士

【女性のための黙想】 7月5日(土) 午後5時～6日(日) 午後4時・・・星野正道師・カメル宣教修道女会  
12月7日(日) 午前10時～午後4時まで・・・カメル宣教修道女会

【奉獻生活者の黙想】

7月7日(月) 午後5時～16日(水) 朝まで・・・星野正道師  
8月6日(水) 午後5時～15日(金) 朝まで・・・中川博道師

【一般のための黙想】・・・水曜黙想・・・毎回水曜日 午前10時～午後4時まで

4月23日・・・復活・・・新井延和師  
5月14日・・・聖マリア・・・奥村一郎師  
6月18日・・・聖霊・・・長岡幸一師  
9月17日・・・十字架の神秘・・・新井延和師

10月8日・・・アピラの聖テレジア・・・新井延和師  
11月12日・・・愛と死・・・奥村一郎師  
04' / 1月14日・・・一年の初めに・・・Srベアトリス  
2月11日・・・恵み・・・アロイジオ師

【幼なきテレーズ】・・・10月4日(土) 午後5時～5日(日) 午後4時まで。・・・伊従信子氏

【待降節黙想】・・・11月29日(土) 午後5時～30日(日) 朝まで。・・・星野正道師

【四旬節黙想】・・・04' / 2月14日(土) 午後5時～15日(日) 午後4時まで・・・未定

【信徒と奉獻生活者の個人指導黙想会】 04' / 3月6日(土) 午後5時～3月15日(月) 朝まで  
・・・星野正道師、Srベアトリス、他 (2日以上から何日でも参加可能です)

【特別黙想会】・・・英語による黙想会・・・Srベアトリス (部分参加も可能です)

4月29日(火) 午後5時～5月3日(土) 朝食まで。

《申し込み：ハガキ またはFAXにて・住所・氏名・電話番号・(所属修道会名) を書いてお申込ください。

ただし、【一般のための黙想】の水曜黙想は、電話での受付もいたします。

また個人、グループの黙想もできますし、個人、グループが企画した黙想のための場所としてもご利用ください。》

〒611-0002 宇治市木幡御蔵山39-12 カメル会修道院 宇治聖テレジア修道院 (黙想)

TEL 0774-32-7016 / FAX 32-7457

## 「処女マリアのロザリオ」

チプリアノ・ボンタッキョ神父

今年の10月16日、教皇ヨハネ・パウロ2世は、「処女マリアのロザリオ」という使徒的書簡に署名し、それをカトリック教会の司教、聖職者、信徒に送られました。そこで、私は今月から何回かにわたってこの書簡を紹介しながら、マリア崇敬およびロザリオの祈りについてお話することにしました。

でも、その前に、カルメル家族にとって、記念すべき一つの歴史的出来事を思い出していただきたいと思います。それは、ちょうど550年前に、当時の教皇様ニコロ5世は男子カルメル会の総長、福者ヨハネ・ソレトの願いを受け容れてカルメル会に女子修道院ならびに在俗者会の共同体の設立を認可されました。したがって、今年が女子カルメル会とカルメル在俗者会の発足550周年を迎えたということです。

さて、「処女マリアのロザリオ」という使徒的書簡の願いは正しいマリア崇敬を高めるところにあると思います。

マリア崇敬に関して、いくつかの偏った傾向が見られます。その1つはマリア崇敬を不思議な出来事に結びつけようとするものです。もう1つはキリストから眼をそらせる結果を招きかねないという心配から、マリアおよび聖人方への崇敬を警戒する聖職者や信徒が増えているということです。

第2バチカン公会議はマリアをキリストと教会の秘儀の中に位置づけながら、正しいマリア信心がどうあるべきかを示しています。「神の母の独特な尊厳について考察する際、あらゆる誤りの誇張を避けると共に、過度の心の狭さを避けるように熱心に勧告する。……まことの信心は実を結ばない一時的な感情や一種の虚しい軽信の中にあるのではなく、まことの信仰から出るものです。真の信仰とは神の母の卓越制を認めるように、私達を導き、私達の母を子供として愛し、母の徳を模倣するように私達を励ますのです。」

(教会憲章67)

さて、ヨハネ・パウロ2世の使徒的書簡は、公会議の教えならびにパウロ6世の「マリア崇敬」(1974年2月2日)の使徒的勧告をもとにしてロザリオの信心について述べています。その序文の1番と2番の内容を紹介しましょう。

ロザリオは第2千年紀において次第に形を整えてきた祈りで、多くの聖人方に愛され、教会教職に何度も勧められてきた祈りです。簡潔ではあるが意味深長で、第3千年紀においても聖性の実をもたらすために大きな意義ある祈りです。マリア的な性格を持つものではあるが、実際にはキリストを中心とした祈りです。その素朴な内容の中には、福音全体のメッセージの深さが含まれ、福音の要約ともいうことができます。ロザリオはマリアの祈りのこだま、その胎内においてははじめられた受肉の御業をうたったマリアの絶えざる賛歌のこだまです。ロザリオを唱える時、キリスト者はマリアの学校に入り、マリアに導かれて、キリストの御顔の美しさを仰ぎ見てその愛の深さを体験させられます。ロザリオを通してキリスト者は、あたかも救い主の母の御手からのように豊かな恵みを受けます。

次いで、教皇様は自分の体験を述べておられます。(序文 2)「ロザリオは私の霊的生活において重要な位置を占めてきた祈りで、喜びの時も、試練の時も同伴してくれた祈りです。この祈りに常に私の心配事を委ね、そのたびに力をいただきました。」と。

2002. 11. 17

(在俗者会講話)

---

## 2003年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場 所 カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

日 程

ご指導

- ・ 5月 2日(木)夕食 ~ 5月 5日(日)昼食 アロイジオ神父様
- ・ 6月24日(火)夕食 ~ 6月27日(金)昼食 チプリアノ神父様
- ・ 9月12日(金)夕食 ~ 9月15日(月)昼食 中川 博道神父様
- ・ 10月16日(木)夕食 ~ 10月19日(日)昼食 星野 正道神父様
- ・ 11月13日(木)夕食 ~ 11月16日(日)昼食 チプリアノ神父様

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。おたずねください。

☆お申込み、お問合わせは下記まで

TEL・FAX 03-3892-1378 (阿部 昌子)

## ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(5 1)

### 神の目をもって旅すること

旅すること——知らない場所を訪ねたり、珍しい音楽を聴いたり、見知らぬ人々に出会ったりすること——は、胸がわくわくし、浮き浮きした気分となるものです。けれども、もどるべき故郷もなく、「旅はどうでしたか」とたずねてくれる人もいないならば、旅に出かける気持ちも失せてしまうことでしょう。旅は、撮ってきたスライドを見たり、話しを聞きたいと思う人々、私たちが愛してくれている人々の目と耳でもって旅する時、楽しいものとなるのです。

このことは、私たちの人生にも当てはまります。人生とは、私たちが愛してくれている神によって旅へと遣わされていることだからです。神は、私たちの帰りを家で待ちわび、私たちが撮ったスライドを見、私たちの友となった人々について話しを聞きたいと熱心に望んでいるのです。私たちが遣わした神の目と耳で私たちが旅をする時、私たちは、すばらしい景色を見、すばらしい音を聞き、すばらしい人々に出会い、…喜びに満ちて家にもどることでしょう。

(0331)

### ミッション(使命)を果たすこと

私たちが、自分の人生をミッションとして生きるならば、私たちには、そこから遣わされ、そこへともどるべき家があるのに気づくようになります。私たちは、自分自身が、或るメッセージを伝えるために、あるいは或る計画に基づいて働くために、はるか遠い国へ、ほんの一定期間だけ遣わされているのだと考えるようになるのです。メッセージが伝えられ、計画が終了したあかつきには、ミッションについて報告するため、また労働の疲れを癒すために、私たちは、家に戻ることを望みます。

最も重要な霊的修業の一つは、私たちの人生の日々は、「ミッションのためにある」日々であるということを知り、それを深めてゆくことにあります。

(0424)

九里 彰訳



## … 主の御手のもとに生きる …

エディット・シュタインのメッセージ

—JANUARY—

主の御手に自分自身をすっかり委ねるなら、あなたは安全に導かれていると信頼して良いのです。主に委ねたものは決して失われることはありません。

人は、いかなる人間的支えもなしに、自分自身のすべてを神の御手に委ねなければなりません。それが、あるべき姿なのです。このようにすれば、心に生じる安心はますます深く美しいものとなるでしょう。

私の生活は朝ごとに新たに始まり、夜ごとに終わります。それ以上に、私は何の計画も目的も持ちません。先の計画を立てることは、日々の義務の一部かもしれませんが、翌日のことについては決して思い悩むべきではありませんから。

朝、目を覚ますと、その日の困難やしななければならない多くのことが、私たちを取り囲んでいます。いつ、これをしようか？ あれは、いつ？ 大急ぎで飛び上がり、駆け出たくなります。手に手綱を取って、言った方が良いでしょう。「どうどう！ 今はまだ、どれ一つとして、私のそばまで来ていないはずですよ」と。

神の祭壇の前での朝のお務めが終わり、仕事の時間が始まる時、私の内のすべてが静まり、靈魂にとって苦しみや重荷となるすべてのものが無くなります。靈魂は、聖なる喜びと勇気と精力に満たされます。靈魂は大きく、広くなったのです。なぜなら、それは内面の自己を離れ、神的生命の中に入ったのですから。

自分の前に、次になすべき事と思われるものがあれば、それが何であれ、私はそれに取り掛かります。

靈的な態度は、人によって異なります。永遠の神とのつながりを創り、生き生きとそのつながりを保ったり、再びそれをよみがえらせるために適当なすべての手段——例えば、黙想や聖書を読むことなど——が、あらゆる人に、あらゆる場合に、同じように実りをもたらす訳ではありません。大切なのは、一番効果がある方法を見つけ、それを良く利用することです。

人がどこに属するかは、召命の問題です。その問題は、自己反省するだけ、あるいは、可能性のある様々な道を検討するということによって、解決できないものです。解決は、祈って求めなければなりません。そして、ある場合には、従順という方法によって、解決されなければならないのです。



日毎にもたらされる恵みの富に比べたら、貧しい人間の靈魂はあまりにも小さすぎます。さらにまた、靈魂がその内に抱くことのできるものを表現するためには、どんな言葉も十分ではありません。

明るい日光、輝くような青空、晴れ晴れとした景色、快活な子供達の笑い声、励ましの言葉——これらの全ては、靈魂の内に新しい生命を目覚めさせる力を持っています。こういった経験から五感に流れ込んでくるものは全て、靈的な何かの現れです。そして、内面的に活気を取りもどすためには、靈魂がそれを受けとめることが必要です。

他に何も存在しないかのように、神と親しく交わることのできる静かな人目につかない場所を持つことは大切です。そして、毎日決まってこのようにすることも大切です。そのために適当な時は、日々の仕事が始まる前の朝の時間であるように私は思います。

宗教は、当然ながら、単に、静かな人目につかない場所のため、また厳かなわずかの時間のためだけのものではありません。宗教は、ただ選ばれた少数の人々にとってだけでなく、すべての真のキリスト者にとって、全生涯の根底的な基礎を成すものでなければなりません。

外的な生活環境における変化は全て、容易に内的な静けさを乱すことにつながり得ます。ですから、神がお命じにならない変化を求めることは、決してすべきではありません。

精力は、なされるべき仕事の量に応じて増加するようです。差し迫った緊急のことが何も無ければ、精力はずっと早く減少してしまいます。神は、そのような無駄のないやり方を心得ておられるように思われます。

\* \* \* \* \*

この記事は、ケルン・カルメル会の Sr. マリヤ・アマータ・ナイヤーが編集し、聖女エディット・シュタインの経に当たるスザンヌ・バツドルフさん（米国カリフォルニア州在住）が英訳された An Edith Stein Daybook: To Live at the Hand of the Lord (Templegate Publishers, Springfield, Illinois, U.S.A.) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

### エディット・シュタイン（十字架の聖テレジア・ベネディクタ） 略歴

1891年10月12日にプレスラウにユダヤ人として生まれ、1922年1月1日にベルクツアーベルンのカトリック教会で洗礼を受けた。フッサールの門下生として、哲学、女子教育の分野で活躍した後、1933年10月14日にケルンの既足カルメル会に入会、十字架のテレジア・ベネディクタの名を受ける。1938年末、ナチの迫害を逃れてオランダのエヒト・カルメル会修道院に移るが、1942年8月2日、ナチに逮捕され、同年8月9日アウシュビッツにて殉教の死を遂げる。1987年5月1日教皇ヨハネ・パウロ二世により列福、1998年10月11日、同教皇により列聖。1999年10月1日、シエナの聖カタリナ、スウェーデンの聖ビルジッタと共に、ヨーロッパの保護者と宣言される。

(西宮カルメル会 訳・編)

# 断想 176

## 流れ星

まだ若い学生のころ、故郷の岐阜に帰り、父母のところで夏休みを過ごすのが楽しみだった。名物の「鶉飼い」でよく知られた長良川の堤をひとりゆっくり散策したり、草の上に腰をおろして、夕日が落ちる伊吹山を眺めたりしているうちに、いつのまにか、日が暮れてしまうことがしばしばだった。とくに、「鶉飼い」のシーズンには、船先に松明の火をつけた幾つかの鶉舟を眺めながら、漆黒の夜空に輝く星の美しさは格別であった。その中でも黄金の矢のように走る「流れ星」の印象は、今なお脳裡に刻まれている。

一瞬、夜空の黒幕を切り裂くかのように走る一連の流れ星は、底知らぬ漆黒の闇のなかに消えていった。大宇宙のなかで、何十億年も光り続ける無数の星々のようではない。暗黒の深淵に消えていく刹那の光。その光は「地上の主（あるじ）」ではない。そこでは、自ら消えることによって、「永遠の命の影」となる。一瞬の眩しい光のなかに漆黒の無限の闇が秘められているかのようなのである。いかなる地上的用語も届かぬ世界がそこにある。確かに、そこで、ヨハネ福音書の冒頭の言葉「ロゴス（みことば）」の響きが聞えてくる。

「初めに みことばがあった。みことばは神とともにあった。みことばは神であった。みことばは初めに神とともにあった。すべてのものはみことばによってつくられた。つくられたもので、みことばによらずつくられたものは何一つなかった。みことばのうちに命があった。この命は人間の光であった。光は闇のなかで輝いている。闇は光を悟らなかった。」（ヨハネ 1、1-5）

旧約の詩人の心もそこで天地にこだまする、

天は神の栄光を物語り 大空はみ手の業をあらわす。

昼は昼に語り伝え 夜は夜に知恵を伝える

話すことも 語ることもなく

声は聞えなくても その響きは全地に及び、

その言葉は 世界の果てにまでむかう

（詩 19、2-5）

さらに、イエスご自身のなまの言葉を聴いてみよう

一粒の麦、もし、地に落ちて死ななければ、一粒のまま残る。しかし、死ねば

豊かに実を結ぶ。自分の命を愛するものはそれを失い

自分の命をすてるものはそれを得る （ヨハネ 12、24-25）

## 御公現

ヒンズー教徒のヒラはとても貧しくて、たった一人の息子を養うにも事欠いていました。ある日彼女は、息子をどこかへ置いてくればもう食べさせる心配はなくなると考えました。そして、わが子連れ、クリスマスの星の輝くところへ向かいました。教会の中なら息子を置いてくることができると考えたのです。彼女はキリスト教について何も知らなかったのですが、教会が貧しい者を受け入れてくれることは知っていました。たどりついた教会には、飼い葉桶の中の赤子のイエズスとマリアとヨゼフの姿がありました。ヒラはその小さなイエズスとマリアの姿に、心打たれました。粗末な飼い葉桶の中に横たわる小さなイエズスに何かさしあげたのですが、彼女には何もありません。そこでわが子を養ういたみをさしあげようと思いついたのです。思い直していたヒラは、わが子の手を握りしめて家路をたどっていました。

神との出会い、そのどんな出会いの中にも、大きなはたらきが確かにあります。三人の博士は神だとわかって贈り物をしました。神に対して自らを差し出したのです。神の現存は今もなお続いています。けれども、飼い葉桶や十字架にその姿を見いだすのでは充分ではありません。この御公現の祝日、神に対する贈り物として自らを差し出すことに、わたしたち一人ひとりと呼ばれています。人となられた神のはたらきに参加し、現実のものとなるために。

三人の博士は、キリストへと導く星を東の空に見つけました。闇の中を歩む人々も大きな光を見いだしました。その星は、すべての人々の心に働きかける神の光、神の恵み、神のはたらきの象徴です。すべての人をキリストへと導く星なのです。私たち一人ひとりの生活の中にも、イエズスとの出会いへと導く恵みはあります。常に正しい道へと私たちを導くその光について行くなら、キリストがすべての善意の人に約束された平和をその身に受けることでしょう。

三人の博士はキリストを見つけて礼拝したと、私たちは聞いています。この世のものではなくキリストを拝むなら、それだけで私たちはキリストの御国に属することでしょう。キリストに出会った三人の博士はもと来た道を帰る事なく、別の道を行きました。これは今までにキリストに出会ったすべての人々の経験です。それぞれの生活の中で真にキリストを見いだすなら、もはや私たちがもと来た道をたどることはなく、この地上に平和と喜びをもたらすただ一つの道、キリストによって導かれるその道を歩むことでしょう。

## イエズスの洗礼

天から声が聞こえた。「これはわたしの愛する子、私の心にかなうもの。」

マルコ。 1 ; 7-11

今日の福音には親密な愛の格別な体験がうかがえます。イエズスご自身が愛されていることをよくご存じでした。イエズスと親しかった幾人かの人、キリストの中にこれまでにはない全くユニークな型の神との関係を見だしていたのです。イエズスは洗礼において全世界の罪をその身に引き受けました。イエズスにとって洗礼を受けることは、全人類の贖いとなることを意味していました。神の無条件の愛がここでも明らかにされたのです。イエズスにおいて、またイエズスを通して、神は選ばれた民を作りました。すべての洗礼を受けた人は、洗礼によって恵まれた神の愛に貢献するという大きな責任を担っています。父なる神は、御ひとり子キリストが全世界の真の救い主であることを証しするのです。

インドでは、キリスト信者がその信仰活動ゆえに捕まったとき、なぜ先祖の宗教を信じないでキリスト教を信じているのか尋ねられるのだそうです。彼は答えます。「私は深い穴の中において、はい上がることもできずにいました。穴の上を見ていた私は、そこに尊敬に値する顔を見つけました。その人はこう言うのです。『わたしはおまえの国の父なるヒンズーだ。おまえが我が教えに従っていたのなら、決してそんなところにはいなかったらう。』そうして、うれしくもない別れの言葉を残して立ち去ってしまいました。『もしもおまえがそこから抜け出せたなら、我が教えに従わねばならないことを肝に銘じておきなさい』と言って。

次にブッダがやって来て、その穴の縁からのぞき込み、声をあげました。『わが子よ、すべては無だと見なして安息に入りさえすればいいのだ。腕を組んで、己の中に引き退くなら、みなが願う平安、すなわち涅槃を見いだすだろう。』私は父なるブッダに叫びました。『ここから出してさえくださるなら、どんなに嬉しいことでしょう。』しかし、ブッダはそのまま立ち去り、私はがっかりするばかりでした。

もう一人現れました。あたたかい光を放つかのその優しい顔は、悲しみをこらえた面持ちでした。その人はためらうことなく、一言も言わずに私のところまで飛び降りてきて、その腕で私を抱えて穴の上へ押し上げ、地面の上に私をしっかりと置いてくれました。私の汚れた衣服を脱がせて新しいものを着せてくれた彼は、ついてくるように言ったのです。『決して汝をそのままに捨て置かず、見捨てることもない。』と言って。

わたしがキリスト者になったのはこういうわけです。この方こそキリストでした。御父の御心にかなう方、世の救い主である神の御ひとり子である方なのです。」

## 年間第二主日

## アンデレは兄弟ペトロに言った。「私たちはメシアに出会った。」

ヨハネ 1 ; 35-42

何年前(イト<sup>で</sup>)のことです。老人が治療を受けるために病院に入院しました。すっかり一通りの処置を受けた後で、看護婦が型どおりの質問をいくつかしました。病院の書類の一つに書き込まねばならなかったからです。その中の一つに次の質問もありました。「あなたの望む宗教は何ですか。」老人は看護婦の顔をまじまじと見つめて言いました。「そんなことを聞いてくださって、これほどうれしいことはないよ。ずっとカトリックになりたいと思っておったんだよ。なのに、今まで誰もそんなことを聞いたりはしなかった。あなたが初めてじゃよ。」

この実話は、少し心苦しいことがらを想起させます。私たちの多くは自分の信仰を他の人々とわかちあうことに対して、どうしてためらってしまうのでしょうか。心をとらえてはなさない宝物、すばらしい宝物にほかならないイエズスを本当に信じているのなら、そのイエズスへの信仰を他の人々とどうしてわかちあわないのでしょうか。先の話の老人がイエズスに心ひかれてカトリックになることを望んでいたのなら、(それがわかっていたなら)それをかなえる準備ができたはずなのです。看護婦が信仰について尋ねなかったなら、その老人はカトリックになりたいという願いをかなえることもなく、その一生を終えてしまっていたことでしょう。

今日の福音から私たちは教えられます。アンドレのように、周囲の人と信仰を分けあうべきであることを。アンドレが自分の信仰を兄弟とわかちあわなかったなら、ペトロは決してイエズスの建てる教会の礎とはならなかったことでしょう。アンドレは二番目の人となるべくこの世に遣わされた人でした。彼はイエズスにつき従った最初の人ではありますが、シモン・ペトロの兄弟として知られているばかりです。アンドレにとって重要なことは、イエズスと共にいて、イエズスに仕えることでした。彼は常に他の人をイエズスに引き合わせる存在だったのです。

神のなさり方はすばらしいものです。この世とそこに住む者すべてをも、神御独りで治め支配する事ができます。それこそ極めて完全にです。しかし、この世の物質的なことがらと精神的なことがらとがうまく機能するために、協力するチャンスを人間に与えようと神はお決めになりましたが、実際のところは、主の助け手となるよりもその妨げとなることの方が多分多いことでしょう。それでも神は私たちを赦すだけにとどまらず、神の御国を整えるさまざまな役割のうちで各自にふさわしいものを選びとり、それを一人一人に示しておられます。

## 年間第三主日

起きなさい。大いなる都ニネベに行き、私が語る言葉を伝えよ。

ヨナ 3 ; 1-5, 10

預言者ヨナに語られた神の言葉は、隣人への愛を伝えることに私たちが呼ばれていることを教えています。私たちはそれを為しえているでしょうか。仲間に対する関心を本当に持ち続けているでしょうか。神に対する真実の愛の証しは、私たちが隣人を愛することにあります。キリスト者たる真髄は、まさに愛そのものにほかなりません。神の愛を伝えない人は、自分自身の中に愛を持っていません。そういう人の心は自分のことでいっぱい、神の入り込む余地がないのです。長い間、私たちはそう証しつづけてきました。けれども、確かにおられるに神の存在に気づくことのできない現代の競争社会、物質社会においてこそ、一層このことはもとめられているのです。

私たちのために十字架上で亡くなられたイエズスは、御自分のすべてを私たちに与えられました。その愛と、全存在を与えてこられました。私たちが救いを得る事を望んでおられるだけでなく、ご自分の力を分け与える事がおできになります。主は私たちの心においでくださり、一人では決して為しえないことに力を貸してください。けれども、私たちは心の扉を開けておかねばなりません。開けておく必要があります。ただ一つイエズスにできないこと、それは私たちの意に反して心を押しかけることなのです。心の鍵をもっているのは私たちなのです。人生にイエズスを招き入れるのは私たちにしかできません。

今日の福音はどう扉を開けてイエズスを迎え入れるかを見せてくれます。また、そうしたいと望むときに払わねばならない代価をも教えています。私たちは使徒と預言者が行ったことをしなくてはなりません。彼らが払った代償を払う用意が要ります。使徒たちの行いを為そうとまたイエズスのためにすべてを犠牲にしようと思えば、イエズスが使徒たちにそうなさったように私たちにもして下さることでしょう。

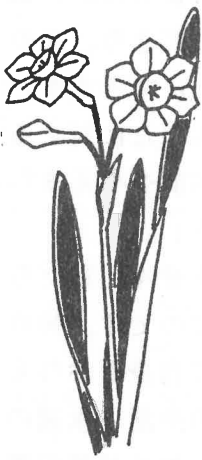
天国へまっすぐな道を歩ませてくださることを主に希うとともに、その道にとどまりたいと思うなら、日々の暮らしの中で出会う我が兄弟姉妹たちに手を差し伸べねばなりません。私たちは愛のメッセージを伝えるために呼ばれているものです。そうです。私たちのその言葉と行いとによって、主の思いを伝えなければならないのです。

(27)

蛭田 幼一

一九九八年九月二十七日

中村稔編の「春と修羅」第三集読んだ。僕の詩と読み比べてみたが、僕のが貧弱に見えたよ。賢治は優しいな。それが一番よく出ているのが「稲作挿話」だ。「停留所にてスイトンを喫す」なんかも泣けてくるな。なぜ今まで第三集に注目しなかったのだろう。きみは社会改良家としての賢治がいいそうだが。世間では童話のほうที่盛んに論じられているが、僕は何ととっても詩だな。きみは「聖人」だと言っていたが。そんな風貌もあるな。中村氏の解説の数行、炯眼だと思うよ。



## フォコラーレニュースより

### 私たちにできる最もすばらしいこと



わたしは主のはしためです。

お言葉どおり、この身に成りますように。

(ルカ1・38)



マリアの聖なる冒険は、この言葉で始まりました。“救い主の母になる”という神のご計画を天使から告げられたマリアは、受け入れる前に、それがほんとうに神のみ旨かどうか、確かめようとします。そして神がお望みだと理解するやいなや、一瞬の迷いもなく、心から「はい」と答えました。この時からマリアは、いつも神のみ旨に完全にじぶんをゆだねました。最も苦しく悲惨な瞬間においても、それは変わりませんでした。

マリアは自分の思いでなく、神のみ旨を果たし、み旨を完全に信頼したので、“いつの世の人からも幸いな者”（ルカ1・48参照）と呼ばれ、女性の模範となりました。マリアに対する神のご計画は、満ち満ちた形で実現したからです。

実際、神のみ旨を果たす時、私たちは本当の自分でいられ、満ち満ちた自由を味わう、という実りが見られます。神は永遠から私たちのことを考え、愛してくださいました。永遠から、神の御心の中には、私たち一人ひとりのために、一つの場所が準備されていたのです。神はマリアに対するご計画を明らかにされましたが、私たちに対しても同様です。神は、私たちの真のあるべき姿を示してください、次のように言われます。「私はあなたの人生を一つの“すばらしい傑作”にできます。あなたもそれを望むなら、私が示す道を進みなさい。そうすれば、あなたに対する私の計画は実現するでしょう。私は永遠からあなたを思い、愛し、名前を与えました。私の望みを示しながら、本当のあなたの姿を見せてあげましょう」と。

ですから、神のみ旨とは、強制的に押しつけられることではありません。私たちに対する神の愛、私たちの上にある神のご計画が示されていくことなのです。神のみ旨は、神と同じく崇高で、心ひかれる素晴らしいものです。神がご自身をお与えになるのです。神のみ旨は、聖なる金の糸のように、私たちの地上の生活と永遠の命を織りなすものです。永遠から始まって、永遠に続くものであり、初めは神の御心であって、やがて地上に現れ、最後は天国に至ります。



しかし、この神の計画が満ち満ちた形で成就するためには、神はマリアの時と同様、私たちも「はい」と答えることをお望みです。そしてはじめて、私たち一人ひとりに対する神のご計画が実現します。ですから私たちもマリアのように「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように」と答えるよう招かれています。もちろん神のみ旨がはっきりとわからない時もあります。ですから私たちも、マリアのように、神のお望みを理解するための光を願う必要があるでしょう。そして、自分をごまかさずに、心の中の神の声によく耳を傾けましょう。また必要な時には、私たちを助けてくれる人に、相談することもできるでしょう。そして、一度神のみ旨を理解したなら、すぐに「はい」と答えたいものです。神のみ旨こそ、わたしたちの生活の中で、最も偉大で最もすばらしいものだからです。私たちは、仕方がないから神のみ旨を“果たさなければ”というのではなく、喜んで“果たすことができる”、神のご計画が成就するよう、み旨に従うことができるのです。これは、私たちができる最良のこと、最も賢いことです。

神の愛に愛で答えるため、「わたしは主のはしためです」というマリアの言葉を、私たちも繰り返したいと思います。このマリアの言葉は、私たちがいつも神の方を向き、神に耳を傾け、神に従順であるよう、助けてくれ、神の計画が実現するため、私たちがみ旨だけを望むようにしてくれます。

しかし、時には、神のみ旨を生きるのが不可能だと感じることもあるでしょう。「そうしない方がいい」「自分の思い通りにやってしまいたい」と思うかもしれません。また神に向かって「これはこうして、あれはやらないで…」と、私たちの方が指図したくなるかもしれません。しかし、神が愛であることを信じ、神に信頼するなら、“私や周りの人の生活で起こるすべてのことは、私の善のためだ”と理解できるでしょう。み旨を受け入れることは、神ご自身を心から受け入れること、神に養われることだと知っているなら、私たちは完全な信頼をもって、自分を神にゆだね、み旨と一体になるまで、こころからそれを望むことができるでしょう。

何一つ偶然に起こることはありません。うれしいこと、つらいこと、どうでもよいこと、どんな出会いも、家庭や仕事、学校の状況も、精神的、肉体的状態も、すべてに意味があります。あらゆる出来事、状況、人々は、神のメッセージを伝えるものです。神の計画が成就されるために、すべてのことが役にたつのです。私たちはマリアのように神のみ旨を果たしながら、日々少しずつ、このご計画を発見していくでしょう。

では、今月の言葉をどのように生きればよいのでしょうか？ 神のみ言葉に「はい」

と答えるとは、神が望まれる行いを、私たちが瞬間瞬間、完全にしっかり果たすことを意味します。それ以外のことはすべてわきに置きましょう。他のことにかかわる考えや望み、思いや行動は後にして、その時その時すべきことに集中しましょう。

神のみ旨が苦しいもの、喜ばしいもの、変わりばえのしないものであっても、私たちは「お言葉どおり、この身に成りますように」ということができます。また、イエスが主の祈りの中で教えてくださった「み心が行われますように」という言葉を、一つひとつの行いをする前に言うこともできるでしょう。

このように生きる奈良、私たちは“人生”というすばらしいモザイク画に、毎瞬間一つづつ石をはめていくことができます。各々のモザイク画は、世に一つしかないもの、神が永遠から私たち一人ひとりのために考えてくださったものなのです。

キアラ・ルービック

フォコラーレ・センター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

Tel. 03-5370-6424 Fax. 03-5370-3055



## おどろき

皆さんは、自分が、思いがけない人に支えられていたと知って驚いたことがあるでしょうか。今日は、わたしのそんな「驚き」を分かち合ってください。

ある修道院へ、二年ぶりに、黙想させて頂くために泊めて頂いた時のことです。シスター達の、お祈りのこもったおもてなしを受け、恵みに満ちた数日を過ごさせて頂きました。

やがて、黙想を終えて、もう修道院を立つという時、「本当に御世話になりました」と御挨拶をしたら、見送りに出て来て下さったシスターが、さらっとこんな風におっしゃったのです。

「それじゃあ、さようなら。また、お祈りしてますね・・・。」

また？ わたしはハッとしました。「またお祈りする」ということは、その前にも祈って下さっていたということです。でも、この前このシスターにお会いしたのは、もう二年も前のこと。わたしの方では、シスターのお名前も忘れてしまい、二年間、彼女のことを思い出すことさえありませんでした。でも、このシスターは、あれ以来、今度いつ再び訪れるとも分からないわたしのために、お祈りして下さっていたようなのです。わたしは驚きました。

この二年間に、自分が頂いたあの恵みにも、この恵みにも、もしかして、この隠れた修道院の無名のシスターのお祈りが、宝石のように散りばめられていたのかもしれないと感じました。そんなこと夢にも知らなかった、気づかなかった自分・・・。わたしは、このシスターにお名前を訊ねました。彼女は、照れたように微笑んで、「MT 姉妹です」と言われました。忘れられないお名前となりました。MT 姉妹様のお祈りが放つ光に自分の魂を照らされつつ、わたしは、感謝のうちに、修道院を旅立ちました。

丸山知佳子

## 諸所の企画についてのご紹介

### ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

\*いのちの泉へ カルメルの霊性に学んで、祈りの道を歩みたい人々のための  
祈りの集いです

講話：伊従信子・片山はるひ（ノートルダム・ド・ヴィ会員）

1月18日（土） 三位一体のエリザベトの聖パウロ

2月22日（土） ルルドの聖母、カルメルの聖母

3月29日（土） 大聖テレジアと聖ヨゼフー祈りの人ー

プログラム：第一部 午後2時から 講話、祈り、お茶&分かち合い

第二部 午後5時から ミサ（日曜日の）夕食、祈り夕べ（8時頃まで）

参加費：一部のみ200円・二部までは500円

申し込み：電話(18:00-21:30)・Fax(03)3594-2254またはTel(03)3594-2247まで

詳細は電話でお尋ね下さい。電話（18時～21時30分）

### スズランハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。：詳細を知りたい方は、下記へ

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

### 風の家

指 導：井上 洋治 師（東京教区司祭）

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

\*新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

### 生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

黙想会 指 導 フランコ神父

\*ご聖体の神秘と茶道

祈りの集い 指 導：シスター マリア、フランコ神父（10:00～15:00）

\*年間 テーマ「キリストに出会った人々」

研修会 テーマ 「宗教対話の霊性」 フランコ神父

宗教対話活動 熊本地区宗教対話研修会グループ

このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。（宿泊8名迄可）

ご相談ください。申し込み。TEL0968-85-3100 FAX0968-85-3186

### 瞑想の家 東光庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師（神言会） \*詳細問い合わせは電話で

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL. 042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」 指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

2003, 2月22日（土）5:30pm～23（日）4:00pm

6月28日（土）5:30pm～29（日）4:00pm

10月25日（土）" 26（日）"

2004, 2月21日（土）" 22（日）"

祈りの集い：神が下さる私の道 指導：星野正道師（カルメル会）

対象：男・女青年信徒

2003, 2月11日（日）10:00am～5:00pm

5月18日（日）10:00am～5:00pm

10月19日（日）10:00am～5:00pm

2004, 2月8日（日）" "

黙想会

指導：星野正道師（カルメル会） \*対象、一般信徒

2003, 5月19日（月）10:00am～4:00pm

10月20日（月）10:00am～4:00pm

年の黙想会

指導：星野正道師 \*対象、修道女

2003, 7月23日（水）5:30pm～7月31日 朝食後解散

指導：雨宮師（東京教区司祭）対象：修道女

2003: 12月26日（金）5:30pm～2004, 1月4日 朝食後解散

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い \*対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第2グループ 毎月第1木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ\*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30Pm～200Pm)

## マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2  
TEL. 03-3351-0297

1. 聖書深読黙想会 : 毎月第二日曜日 対象: どなたでも
2. 詩編: 毎月第一火曜日 (第一火曜が祝祭日に当たった場合は第二火曜日)
3. ヨハネ福音書: 五月で詩編が終わり、六月よりヨハネ福音書に入ります。同じ第一火曜日です。ご自由にご参加下さい。
4. 祈りの集い : 毎月第三土曜日 18:00~20:00.
5. 「来てみなさい」結婚、修道生活、独身生活を選定したい方、自分の人生について考えたい方

対象: 20代、30代の未婚女性 参加費: 500円(弁当持参)  
(10:00~16:30)ミサあり。

\* 毎月指導者が変わります。お問い合わせ下さい

2003. 1/26(日) わたしはもうあなたたちを僕とは呼ばない、友と呼ぶ

2/23(日) 何でもこの方の言う通りにして下さい(ヨハネ2.5)

3/23(日) 彼らをこの世から取り去ることなく悪から守って下さるように、と、私はお願いします (ヨハネ17.15)

## 聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126 静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax. 0559-92-2120

祈りの集い (問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで!)

● 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか?

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは: 165-0033 東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL. 03-3337-3291

『心のいほり。内観瞑想センター』代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

\* TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

\* 活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

\* 希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

2003. 1/12(日) 2時~1/18(土) 2時まで、兵庫、宝塚売布  
1/27(月) 10時~2/1(土) 2時まで、横浜、戸塚  
2/9(日) 2時~2/15(土) 2時まで、京都、竜安寺  
2/24(月) 10時~3/1(土) 2時まで、場所未定  
3/9(日) 2時~3/15(土) 2時まで、鹿児島溝辺  
3/23(日) 2時~3/29(土) 2時まで 兵庫、宝塚売布

リーゼンフーバー研究会案内

2003

キリスト教 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペ  
入門講座 ホール。どなたでも聖書に基づきキリスト教の基本テーマを致します。

キリスト教 毎月第一・第二火曜日18時40分～20時30分 聖イグナチオ教会  
理解講座 アルペンホール。キリスト教の基礎知識のある方。2年間コース  
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心テーマを探求

聖書研究会 木曜日 12時40分～13時25分上智大学7号館316号研究室  
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。

座禅会 \*月曜日 17時20分～20時10分 \* 木曜日18時20分～20時30分  
どなたでもどうぞ。初心者歓迎、遅刻、不定期の参加可。

接心 2003. 3/15(土)8時30分～3/16日(日)16時 上石神井(5400)

ミサ：水曜日

17:10～18:00 場所：上智大学内クルトゥムハイム1階右小聖堂  
どなたでも(8月を除く)

黙想：毎月第2、第4火曜日18時45分～20時

水曜日 18:00～18:30 場所：上同じ(ミサ、黙想、(8月、11/1を除く))

祈りの集い：下記土曜日 13:30～16:00 場所：S.J.ハウス第5会議室

講話、黙想、ミサがあります。\*.2003.1/18.2/22.3/8

黙想会： 2003. 3/1. (土)10時～2日(日)15時 1泊4400円

アガペ会： 説明会と集い・下記の日 13時30分～ (20代～40代の信者)

2003. 1/25(土) 場所：S. J. ハウス. 第5会議

クリスマス会

ミサ

以上、問い合わせ・連絡先：クラウド・リーゼンフーバー神父  
〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス

直通電話 03-3238-5124、5111(伝言)、FAX, 03-3238-5056

## リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座

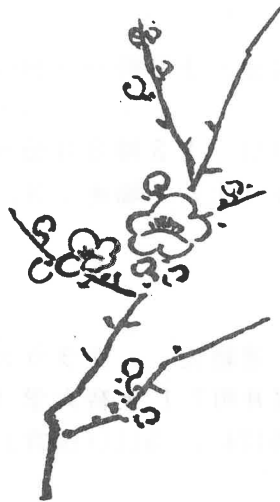
対象：キリスト教についての基礎知識を持ち、信仰をより深く考えたい  
理解したい、生きたい方はどなたでも歓迎です。

### 各回のテーマ

- 1/10 聖書と教会—信仰と基盤になる言葉
- 1/17 秘跡と教会生活—毎日を養う信仰
- 1/24 神の言葉—神との日常的な対話と黙想の仕方
- 1/31 結婚と独身—愛の道

### キリスト教理解講座

- 1/7 御子の受肉—神の子と人の子
- 1/21 信仰者の共同性—教会の本質
- 2/4 [教会] 教会の構造—その起源と機能
- 2/18 キリスト者の一致—分裂と和解
- 3/1~2 \*黙想会
- 3/4 しるしとしての教会—社会における信仰者の課題
- 3/18 母なる仲間—信者と教会の原型マリア
- 3/29 感謝のミサ (2 pm クルトゥハイム2階)





# 黙想会 ☆☆ご案内☆☆

わたしたちの心は  
燃えていたではないか  
～ 主の招きに生きる ～

日 時：2003年2月15日(土)13:00～16(日)16:00

場 所：上野毛カルメル会《テレジア黙想の家》

☎158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 ☎ 03-5706-7355

東横線「自由が丘」で大井町線に乗り換え、上野毛駅で下車。 一徒歩7分程度

指 導：星野正道師(カルメル会司祭)

対 象：20代～30代 女性信徒

参加費：5000円

申込み先：聖ウルスラ修道会《東京修道院》or《一本杉第2修道院》

①東京修道院住所、〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町4-27-18

☎/FAX 0422-56-9889 係→Sr,小針

②第2修道院住所 〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1-2

☎ 022-286-1525, FAX022-286-2804 係→Sr,瀬戸

申込み：2003年2月7日(金)まで。

(電話、FAX、はがき等でお申し込みください)

日 程(予定)

## 《 第一日目 》

受 付：13:00～13:50  
おインテリジョン 14:00～14:30  
講 話：①14:30～15:30  
休 憩：15:30～15:45  
個人黙想：15:45～16:30  
個人面接：16:30～17:30  
晩の祈り：17:30～17:50  
夕 食：18:00～18:50  
講 話 ②19:15～20:15

## 《 第二日目 》

朝の祈り：7:30～7:50  
朝 食：8:00～8:45  
③講 話：9:15～10:15  
休 憩：10:15～10:30  
個人黙想：10:30～11:15  
分かち合い：11:15～12:00  
昼 食：12:00  
個人面接：13:00～14:00  
個人黙想：14:00～14:30  
ミ サ 14:40～15:30  
《ミサ後ブレイク・解散》

# ～祈りがあなたを待っています～

「祈り」があなたを待っています。ともに日常生活を分かちあいながら、神さまと心をかよい合わせてみませんか。

## 祈りの集い

日時：**9月8日(日)・10月20日(日)**  
**12月15日(日)・1月19日(日)**  
**2月16日(日)・3月16日(日)**  
1:30～4:00

対象：20代30代の未婚女性・求道者

参加費：無料

## 個人指導による召命黙想会

日時：**11月23日(土) 10:00**  
～**24日(日) 16:00**

対象：修道召命を考えている20代  
30代の未婚女性信徒

参加費：2000円(宿泊費・食費を含む)

担当：コングレガシオン・ド・ノートルダムのシスター

場所：コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院

申込み・問い合わせ：

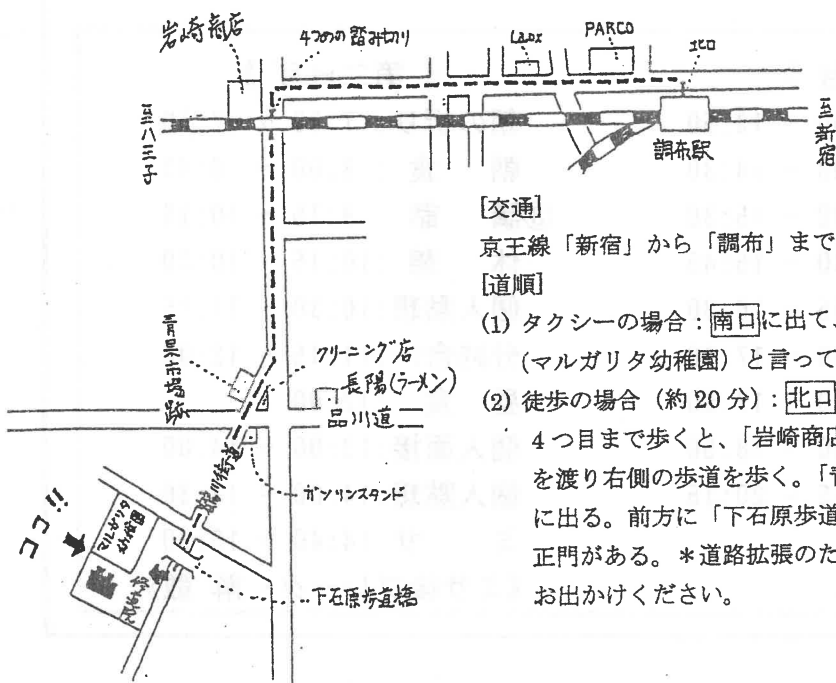
〒182-0034 東京都調布市下石原3-55-1

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院(係：渡辺)

TEL: 0424-82-2012 FAX: 0424-82-0760

E-mail: mariaprovince@tokyo.email.ne.jp

URL: www.cnd-m.com



### [交通]

京王線「新宿」から「調布」まで特急、急行、快速で約15分。

### [道順]

- (1) タクシーの場合：南口に出て、「鶴川街道沿いのノートルダム修道院」(マルガリタ幼稚園)と言って下さい(約5分)。
- (2) 徒歩の場合(約20分)：北口に出て、左方向に歩く。踏み切り4つ目まで歩くと、「岩崎商店」に突き当たる。左折して踏み切りを渡り右側の歩道を歩く。「青果市場跡」を通ると信号のある十字路に出る。前方に「下石原歩道橋」が見える。その下、右手に修道院の正門がある。\*道路拡張のために工事をしているので、気をつけてお出かけください。

## 横浜聖書深読黙想会2003年日程

| 回数  | 月 日                  | 場 所                    | 指導司祭         | 備考 |
|-----|----------------------|------------------------|--------------|----|
| 第1回 | 1月29日(水)<br>～30日(木)  | イエズス会鎌倉修道院<br>(十二所)    | 新井 延和<br>神父様 |    |
| 第2回 | 3月26日(水)<br>～27日(木)  | 上野毛修道院黙想の家<br>(東京 世田谷) | 星野 正道<br>神父様 |    |
| 第3回 | 5月29日(木)<br>～30日(金)  | ザビエル・センター<br>(横浜 滝之上)  | 奥村 一郎<br>神父様 |    |
| 第4回 | 7月10日(木)<br>～11日(金)  | 不二聖心会黙想の家<br>(裾 野)     | 新井 延和<br>神父様 |    |
| 第5回 | 10月9日(木)<br>～10日(金)  | ザビエル・センター<br>(横浜 滝之上)  | 九里 彰<br>神父様  |    |
| 第6回 | 11月18日(火)<br>～19日(水) | 聖テレジア修道院<br>(宇 治)      | 奥村 一郎<br>神父様 |    |

[イエズス会鎌倉修道院黙想の家]

〒248-0001 鎌倉市十二所 80 Tel 0467-25-1616

[上野毛修道院黙想の家]

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 Tel 03-5706-7355

[不二聖心会黙想の家]

〒410-1126 裾野市桃園 198 Tel 0559-92-2120

[聖テレジア修道院]

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 Tel 0774-32-7456

[ザビエル・センター]

〒231-0837 横浜市中区滝之上 1 Tel 045-621-1974

連絡責任者 密本 昌俊 Tel・fax 045-621-5838

## 聖書深読ご案内

翌日の日曜日の福音を、深く味わい、分かち合い、解説で学びながら、福音を深く心に刻む 聖書深読黙想に、お誘いの上、ご参加ください。

|     |           |          |
|-----|-----------|----------|
| 1.  | 1月11日(土)  | 北村 善朗 神父 |
| 2.  | 2月 8日(土)  | 奥村 豊 神父  |
| 3.  | 4月12日(土)  | 新井 延和 神父 |
| 4.  | 5月10日(土)  | 奥村 一郎 神父 |
| 5.  | 6月14日(土)  | 北村 善朗 神父 |
| 6.  | 7月12日(土)  | 新井 延和 神父 |
| 7.  | 9月13日(土)  | 奥村 豊 神父  |
| 8.  | 10月11日(土) | 奥村 一郎 神父 |
| 9.  | 11月 8日(土) | 中川 博道 神父 |
| 10. | 12月13日(土) | 新井 延和 神父 |

場 所 : 河原町カトリック会館6階  
費 用 : 各回2500円 (昼食代を含む)  
時 間 : 午前10:00~午後4:00  
持参品 : 聖書・筆記用具・ノート

\* 申込・問合せ : 〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル  
河原町カトリック会館内 聖書委員会  
TEL:075-211-3484 FAX:075-211-3910  
各回、お申込は、3日前までに

主 催 : 京都教区聖書委員会

夢にだに思はじ生きて  
この国に法王様をお迎へすとは

マリア安達留子遺稿集

萩の歌より



上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

聖テレジア修道院（黙想）は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急大井町線：「上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線：「六地蔵駅」下車徒歩15分

京阪バス：六地蔵の町並バス停より御蔵山行きに乗り

「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共：0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って明礪橋を右折

男子跣足カルメル修道会

## お 願 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨  
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画  
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて  
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

- 
- ・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は佐々木茂子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

☎045-575-5722

## あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道

1. 凡在本行存款之存款人，其存款之利息，均按本行所定之利率计算。
 2. 存款人如欲支取存款时，须向本行出示存款单，并经本行工作人员核对无误后，方可支取。
 3. 存款人如欲将存款转入其他账户时，须向本行提出申请，并经本行工作人员办理相关手续。
 4. 存款人如欲将存款用于其他用途时，须向本行提出申请，并经本行工作人员办理相关手续。
 5. 存款人如欲将存款用于其他用途时，须向本行提出申请，并经本行工作人员办理相关手续。

本行所定之利率，均按本行所定之利率计算。存款人如欲支取存款时，须向本行出示存款单，并经本行工作人员核对无误后，方可支取。

1. 凡在本行存款之存款人，其存款之利息，均按本行所定之利率计算。

2. 存款人如欲支取存款时，须向本行出示存款单，并经本行工作人员核对无误后，方可支取。
 3. 存款人如欲将存款转入其他账户时，须向本行提出申请，并经本行工作人员办理相关手续。
 4. 存款人如欲将存款用于其他用途时，须向本行提出申请，并经本行工作人员办理相关手续。
 5. 存款人如欲将存款用于其他用途时，须向本行提出申请，并经本行工作人员办理相关手续。

本行工作人员